与謝野晶子と会津

「裏磐梯」にて

動かざる　こと青玉に　変わらねど
落ちて流れる　音ある湖水

湖沼ども　柳葉・翠（やなぎはひすい）
竜胆（りんどう）の　いろ鴨・（つき）くさの
青をひろぐる

五色沼　いくつの色を　しか呼べど
数を知れるも　あらぬ沼かな

「強清水」にて

強清水　屋をかけたるに　我が入りて
いこへる時も　秋風ぞ吹く

杯に　京街道の　強清水
盛りて少女の　授けたるかな

「戸ノ口」にて

湖が　一転したる　大河の
ゆくへを望む　秋かぜの中

与謝野晶子は、明治十一年（一八七八）十二月七日大阪府堺市生まれ。晶子は会津に二度来ています。一回目は明治四十四年（一九一一）八月で、会津若松市の東山温泉新瀧楼（新瀧）へ来ました。二回目は与謝野鉄幹の一周忌にあたる昭和十一年（一九三六）年九月です。前年には猪苗代から裏磐梯のまで道路がようやく完成したのです。晶子が会津に来たのは、会津若松市の森芳介・愛子兄妹の招きでした。裏磐梯と呼ばれるのは、大正九年からでそれまでは桧原と呼ばれていました。

昭和十一年九月四日、晶子は猪苗代町長浜「鳥万」に宿泊。五日には裏磐梯に入り九首歌を残しました。歌からは、五色沼の神秘な色、湖畔で草花の姿や沼の色の多さに驚いたようすが伺えます。その日は、裏磐梯にあった宮森太左衛門・遠藤十次郎（醤油屋、新横町滝口太右衛門十二男）の別荘に泊まり、六日には猪苗代から会津若松市の戸ノ口、蕎麦と天ぷら饅頭で知られ強清水で休憩し、東山温泉の向瀧へ向かい宿泊しました。強清水では、秋の様子を歌っています。七日には、鶴ヶ城や飯盛山、御薬園に行き、会津女子高等学校（現葵高校）で記念講演をしています。その日は、会津若松市柳原町の森家別荘に宿泊十日に帰京します。昭和十五年には、森芳介と晶子の六女藤子が結婚しています。晶子は、昭和十七年五月二十九日（六十四歳）にて死去。

会津の歌は、昭和十七年晶子の遺稿集『白桜集』に「会津詠草」として収められています。与謝野晶子の住まいは、東京都杉並区南荻窪で、今は「与謝野公園」となっています。

「飯盛山」にて

白虎隊と　腹の山の　悲しみは
羅馬（ローマ）の塔も　なぐさめぬかな

われもきて　飯盛山に　悲しみぬ
戊辰八月　二十三日

白虎隊　そのいやはてに　望みたり
あわれと城の　崩されにけん

図・写真・文　©石田明夫2016　問合せ　TEL・Fax 0242-24-3423　090-1378-8087
メール・ホームページ「会津歴史観光ガイド協会」で検索。